

contributions
In conclusion, the
S. Kikuchi for valuable disc

Institute of Physics,
Osaka Imperial Univer

2014.7/ No.141

大阪大学の今を紹介する情報誌

阪大 NOW

On the Interaction of Elementary Particles. I.

By Hideki YUKAWA.

(Read Nov. 17, 1934)

§ 1. Introduction

At the present stage of the quantum theory little is known about the nature of interaction of elementary particles. Heisenberg considered interaction of "Platzwechsel" between the neutron and the proton of importance to the nuclear structure.⁽¹⁾ Recently Fermi treated the problem of β -disintegration on the basis of "neutrino"⁽²⁾. According to this theory, the neutron and proton can interact by emitting and absorbing a pair of neutrino and electron. Unfortunately the interaction energy calculated on such basis is much too small to account for the binding energies of neutrons and protons in the nucleus. It seems natural to modify the theory of Fermi in the following way. The transition of a nucleon from a nucleon state to a nucleon state always accompanied by the emission or absorption of a neutrino and an electron. If the

濃いつ! 阪大 — 湯川秀樹編 —

阪大が育てた 湯川秀樹の中間子論

Contents

03 Topics

めざせ 世界へ



04 濃いっ!阪大1 — 湯川秀樹編 —

阪大が育てた 湯川秀樹の中間子論

12 濃いっ!阪大2 — 省エネ編 —

阪大の節電・省エネに関する取り組み

16 役員室だより

22 受賞・表彰

25 人事／訃報

26 阪大の組織AtoZ

28 教職員インタビュー

29 阪大ほっとニュース

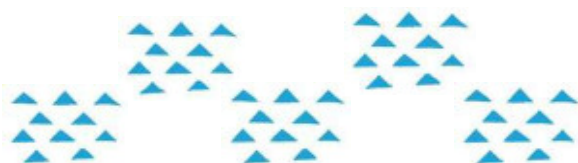
30 Information



表紙写真：湯川秀樹が阪大に提出した博士論文



表紙写真撮影：クリエイティブユニット 准教授 伊藤雄一



遠藤保仁選手

Topics

めざせ 世界へ

ガンバ大阪の遠藤保仁選手のサイン入りユニフォームを、総合図書館本館2階ラーニングコモンズに展示しています。遠藤選手は2014ワールドカップに日本代表として出場し、ミッドフィールダーとして活躍しました。ユニフォームはガンバ大阪とのフレンドシップ協定で寄贈されたものです。

阪大が育てた 湯川秀樹の中間子論



湯川秀樹が愛用した黒板に中間子論の数式を書く細谷教授

大阪大学と湯川秀樹

理学研究科教授

総合学術博物館湯川記念室委員長 細谷 裕

日本人として最初のノーベル賞に輝いた湯川秀樹の中間子論の論文は、当時、大阪中之島にあった大阪大学(旧大阪帝国大学)理学部で誕生し、この論文により湯川秀樹は大阪大学より理学博士の学位を取得したことを、皆さんはご存知だろうか。1934年秋、物理学における大変革、現代の素粒子物理学の幕が大阪大学で切って落とされたのである。

大阪大学は長岡半太郎を初代総長として1931年大阪中之島に設立され、理学部物理学科主任の八木秀次は、1933年当時26歳の湯川秀樹を講師として迎え入れた。湯川は原子物理学実験の巨匠、菊池正士のグループで自由闊達に研究に勤しんだ。後に湯川は「ここにいると、何か仕事をせすにおられないような気持ちになる」(『旅人-湯川秀樹自伝』より)と振り返っている。1934年10月、湯川は「 γ ray」(後のパイ中間子)の考えを芽生えさせる。同僚との議論と野球の練習が織りなす中、ひらめいたアイデアは、物質の基本単位である原子、その原子の中心にある原子核を原子核たらしめる核力の謎を解き明かす理論へと発展する。一月半のうちに湯川は、自身にとって最初の論文を仕上げる。これぞ、1949年のノーベル物理学賞の対象になった論文である。

しかし、中間子の理論が認められるには紆余曲折を経た。湯川が1934年秋から1938年春までに大阪大学でやり遂げた研究は凄まじい。この間、湯川は9編の論文を執筆している。湯川のもとに加わった坂田昌一と共に、原子核実験や宇宙線観測の解明に取り組むが、しばらく中間子論は表にはでない。9編目の論文で、当時、宇宙線観測で見つけた新粒子(ミューオン)が湯川が予言した中間子である可能性を吟味すると、湯川理論は世界の潮流として着目されることになる。湯川も自分の理論に自信を持ったに違いない。



湯川秀樹

1934年の論文を主論文、その後の9編の論文を参考論文として、1938年4月、湯川は大阪大学より理学博士の学位を取得する。

1933年から1939年の大阪大学時代は、湯川秀樹の素粒子論研究の極みであった。理論と実験観測が絡み合い、新しい概念、自然観が築かれた物理研究の黄金期であった。それを育んだ大阪大学の自由な研究環境を我々は誇りに思う。我々の財産であり、かつ、将来への指針である。この度、湯川がコロンビア大学で愛用した黒板が、湯川理論誕生の地、大阪大学に移設された。この黒板の上で議論を深め、我々は、湯川に続こうと思う。

細谷裕 (ほそたに ゆたか)

1951年生まれ。79年東京大学理学博士。シカゴ大学、ペンシルベニア大学、ミネソタ大学を経て、2000年から現職。専門は理論物理学素粒子論。「細谷機構の発見」により07年仁科記念賞受賞。ヒッグス粒子、暗黒物質、時空の謎に挑む。

1 阪大が育てた湯川秀樹の中間子論

湯川秀樹が赴任した当時の阪大理学部

湯川秀樹 略歴

1907 年	1 月 23 日	東京に生まれる	1943 年	文化勲章受章
1929 年		京都帝国大学理学部物理学科卒業	1948 年	プリンストン高等研究所に招かれ渡米
1932 年		京都帝国大学理学部講師	1949 年	コロンビア大学客員教授
1933 年		大阪帝国大学理学部講師（兼任）		ノーベル物理学賞受賞
1934 年		大阪帝国大学理学部講師（専任）	1950 年	大阪大学名誉教授
		中間子論に関する論文発表	1953 年	大阪大学湯川記念室発足
1936 年		大阪帝国大学理学部助教授		京都大学基礎物理学研究所を新設、所長
1938 年		大阪帝国大学より理学博士の学位を取得	1970 年	京都大学を定年退官
1939 年		京都帝国大学理学部教授	1981 年	9 月 8 日 永眠

大阪大学は、大阪府、大阪医科大学、地元の産業界の熱心な運動で、1931 年に医学・理学の 2 学部で設立され、理学部は、数学・物理学・化学の 3 学科で構成されました。自身も物理学者である長岡半太郎初代総長は、理と工の間を行く理学部を目指し、物理学科には塩見理化学研究所の浅田常三郎や理化学研究所の菊池正土らを教授として招き入れました。その中でも、東北大学工学部出身の八木秀次教授を理学部物理学科主任としました。

八木教授は、多くの若手研究者を招き入れ、湯川秀樹はその中の一人でした。八木教授は、理化学研究所から招いた菊池教授のグループに講座の壁を気にかけずに若手研究者を集中させ、新しい学問である「量子力学」の研究を推進しました。湯川は別の研究室の所属でしたが、菊池研究室の理論部として参加しました。

中之島に理学部本館が完成する直前、湯川は八木教授室に呼ばれ、「論文がなかなか出ないのはどういうわけか、もっと勉強しろ」と叱責を受けたといわれます。当時は、湯川が「それまでおった、静かな京都帝大の雰囲気と比べると・・(中略)・・博士は、少なくとも最初のうちは、当時の阪大の空気には、なじめなかった」(内山龍雄「湯川博士と大阪大学」



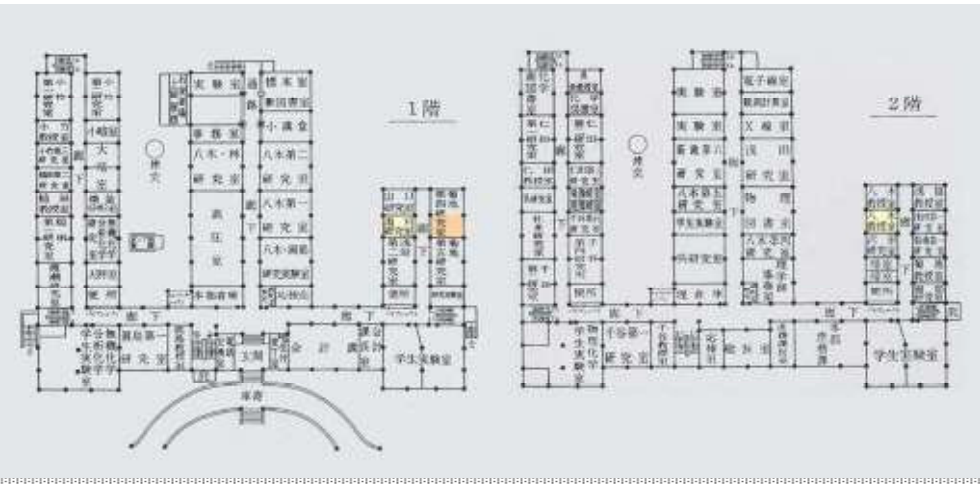
1934 年 4 月に中之島に大阪帝国大学理学部本館（写真上）が竣工するまでは、理学部の教員は医学部、塩見理化学研究所（写真下）等の建物の一部を使用しており、湯川も同所に仮設された理学部物理教室の一室を使用していた。

『適塾』No15,1982,19・26）ことが想像されます。しかし、八木教授のこの痛烈な激励が、湯川の大膽な新粒子（中間子）の仮説へと踏み切らせる後押しとなり、後にノーベル賞の対象となる仕事を仕上げることになりました。

湯川は、「私が菊池博士と一緒に阪大におったのは 1939 年までの数年間に過ぎないが、その間に受けた影響が非常に大きかったことを、今にしてつくづく思い知らされるのである。坂田・武谷・小林の諸氏と一緒に、中間子論に関する共同研究をやったのも、一つには菊池研究室の生き生きとした雰囲気があったからである。」と後に書き残しています。



大阪帝国大学理学部（中之島）の屋上にて 1934 ～ 37 年頃。前列左から山口太三郎・菊池・岡小天、後列左から湯川・渡瀬謙・熊谷（青木）寛夫・伏見康治・坂田昌一。
(提供：京都大学基礎物理学研究所 湯川記念館史料室)



菊池食堂（菊池第 4 研究室）

湯川の部屋のすぐ前の部屋は実験室だったが、実際には菊池研究室の食堂という形で使われていた。昼時には菊池、山口、青木、伏見の他に、湯川、坂田の 2 人がこの食堂に集まって食事をとり、終わると囲碁や将棋を楽しんでいたそう。こうした交遊を端緒として、湯川は菊池研究室に溶け込んでいった。

1 阪大が育てた湯川秀樹の中間子論

中間子論のひらめき

湯川生誕 100 年を機に公開された日記には、アイディアに到達する直前の様子が克明に記されています。10 月 9 日から 12 日までの 4 日間に、 γ' ray という言葉が現れていますが、この γ' は新粒子（中間子）のことで、湯川が電気や磁気の力を担うとされる光子（ γ ）をヒントに、核力にも同様な粒子を想定し理論を組み立てたことが明確に示されています。また、中間子論を、次男誕生や学内野球で気ぜわしい中、ごく短時間でまとめた状況がわかります。

湯川秀樹が唱えた「中間子論」とは

物質は原子から成り立っている。その原子の中心部には原子核があり、そのまわりを電子がまわっている。原子の大きさは 10^{-10} m ぐらい、原子核の大きさは 10^{-15} m ぐらいである。その原子核の中では、陽子と中性子が「核力」で結ばれてひしめいている。核力の正体は何か、これが湯川が解き明かそうとした謎である。

正と負の電荷を持つ2粒子は、クーロン力によって引き合う。量子論の言葉を使うと、荷電粒子は光子（光の粒子）をやり取りして力を及ぼし合う。湯川は、核力は陽子や中性子が「パイ中間子」をやり取りして生まれると提唱した。力のポテンシャルは、陽子・中性子間の距離を r として

$$-g^2 \frac{e^{-r/a}}{r} \quad (\text{湯川ポテンシャル})$$

となる。 a は力の到達距離を表し、中間子の質量 m と $a = \hbar/mc$ の関係で結ばれている。核力の到達距離から、湯川は中間子の質量が、電子の質量の 200 倍から 300 倍程度であると見積もった。湯川が予言した中間子は、1947 年パウエルによって発見された。



～公開された日記から～

1934 年
10 月 9 日 火曜

六時半起床。
浅田さんのコロキウム、
東出さん七時頃になる。
 γ' ray について考へる。



10 月 10 日 水曜

六時半起床。
 γ' ray の考へを坂田君に
話す。
午後四時半頃から堂島
空地で野球練習。

10 月 11 日 木曜

六時半起床。登校。午後演習、談話会、池原、山口。
 γ' ray の話、菊池さん等と話合ふ。

10 月 12 日 金曜

昨夕食、阪急食堂で支那そばを食べた所、生やけでかたく、
夜から腹痛む、朝下痢する。
行きがけに、阪急で春ちゃんの靴、運動靴買ふ。
登校、相変わらず γ' ray のことを坂田君と議論する。

10 月 27 日 土曜

六時三十分起床。
九時登校、講義終つて午後の雑誌会の準備、笠井さんより
電話。午後二時より三階小会議室で charged quantum の
理論の話する。
帰宅六時。

11 月 17 日 土曜

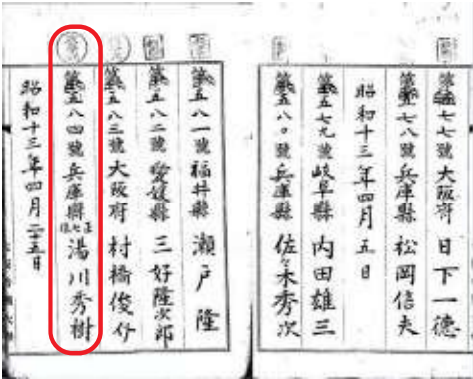
朝六時四十分起床。講演準備。
十一時半ホテルを出て、駅に荷物を預け、丸ビルで昼食。
数物は一時半開会。五時前、小生講演。六時前に終る。
仁科さんの激励あり。(以下略)

出典：湯川秀樹著、小沼通二編『湯川秀樹日記 昭和九年：中間子論への道』朝日新聞社、2007

阪大物理学研究の発展 ～脈々と受け継がれる湯川精神～

1934 年 11 月 30 日、湯川は論文「素粒子の相互作用について (On the Interaction of Elementary Particles)」(表紙写真) を日本数学物理学会の欧文誌に投稿しました。この論文は、のちのノーベル賞受賞対象となったもので、4 年後の 1938 年には、この論文を主論文として、全 9 編からなる論文を博士論文として阪大に提出しました。当時の博士学位授与台帳には「昭和 13 年 4 月 5 日 第 584 号 湯川秀樹 理学部」と記載されています (写真右)。今年 4 月に、提出論文が総合図書館に保管されていることが分かりました (写真下)。学会で発表されてから今年でちょうど 80 年。この節目の年に湯川の学位論文の業績が改めて確認されました。

この博士論文が提出される前後から、武谷、小林、谷川らの優秀な研究者が全国から湯川のもとに集まってきました。湯川は、世界で初めて新しい素粒子である中間子の存在を予言し、「素粒子物理学」



という分野を作り上げました。当時は、物理学の世界で新しい概念ができたということが非常に画期的なことでした。その理論は、湯川が阪大在籍時の 6 年間に仕上げたものです。

湯川は阪大在籍時に、物理学における基礎科学研究を極めました。湯川が阪大を離れてからも、その時の流れは脈々と受け継がれ、阪大物理学の分野は発展を続けました。湯川と親交のあった内山龍雄は 1956 年ゲージ理論の基礎を作り上げました。基礎的な研究を推進するための設備として、1971 年に核物理研究センターが、1976 年にレーザー核融合研究センターがそれぞれ建設されました。コロンビア大学の研究室で湯川が愛用していた黒板が阪大に移設されたのは、中間子論が阪大在籍時で大成されたという経緯もありますが、創立から 80 余年の間、湯川に続けと言わんばかりにその精神が現在まで受け継がれてきたことが評価されたとも言えます。

1 阪大が育てた湯川秀樹の中間子論

湯川秀樹が愛用した黒板



「この黒板から湯川先生のオーラを感じます」

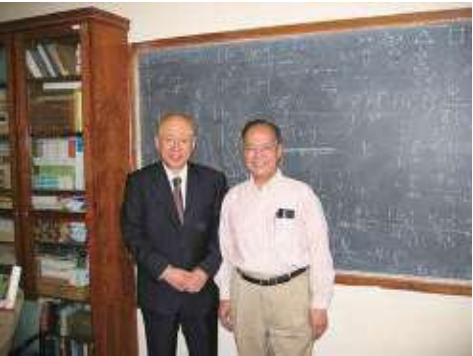
これは、初めて湯川秀樹博士愛用の黒板にチョークで書いてみた、理学研究科の大学院生の言葉で、テレビニュースでも放映されたものである。実際、黒板の設置に関わった私も、黒板の現物がはるばるアメリカから日本に到着したとき、同じ感想を持った。しかし、いま、湯川博士の愛用の黒板は、完全に理学研究科の日常にとけ込んでしまった。毎日の大学院生のディスカッションや自主ゼミに使われ、まさしく、研究と教育のための黒板として、第2の黒板人生をスタートさせている。

湯川博士は、1949 年にノーベル物理学賞受賞の報を受けたとき、アメリカのコロンビア大学で客員教授をしていた。帰国となって空いた教授室を引き続き使ったのが、その後ノーベル物理学賞を受賞する T.D.Lee 教授である。彼は湯川博士の使用した机や黒板などをそのまま敬意を持って使い続けたという。その黒板が、半世紀を経て、大阪大学にこの3月に移設されることとなったのであった。理化学研究所のセンター長も務めた Lee 教授の口添えと理化学研究所のご厚意で、湯川黒板は阪大へやって来た。阪大平野俊夫総長、湯川博士のご子息や南部

陽一郎阪大特別栄誉教授が列席した黒板披露式典では、「黒板フェチの橋本さん」と何度も呼ばれた私だが、黒板好きが高じてここまで人をつなげることが出来たことを幸運に思っている。

黒板は、学生が自由に使える、理学研究科物理学専攻 H 棟の 7 階コミュニケーションスペースに設置されている。しかし、この頃の大学生は、LINE だの twitter だのと忙しい。定められたメディア形式の中で泳がされ、自分の表現手段を制限してしまっていることに気付いていない。黒板は、自分のアイデアや考え方を、全く自由にしてくれるキャンパスである。まずは湯川博士のオーラを感じてみるだけで良いので、ぜひ使ってみてほしい。使ってみればすぐに、湯川黒板は自分の日常となり、そして自分が次のステップに立っていることに気付かされる。

(理学研究科教授 橋本 幸士)



Lee 教授の研究室に掛けられていた黒板。
理研の野依良治理事長（左）と Lee 教授

橋本幸士（はしもと こうじ）

1973 年生まれ、大阪育ち。2000 年京都大学博士（理学）。12 年から現職。理化学研究所橋本数理論理学研究室主宰、兼務。専門は超弦理論、理論物理学、素粒子物理学。「バリエー」編集委員。物理学とその芸術的表現に幅広く興味を持つ。黒板好き。
Twitter: @hashimotostring

黒板の披露式典が
理学研究科で行われました

5 月 13 日に理学研究科で行われた「湯川秀樹先生愛用の黒板披露式典」では、南部陽一郎特別栄誉教授、湯川先生のご子息の湯川春洋（はるみ）氏、平野俊夫総長らが出席し、除幕を行いました。



参列者による黒板除幕式



湯川博士との思い出を語る南部特別栄誉教授

もっと詳しく知りたい人はこちらへ

湯川記念室

大阪大学湯川記念室は 1953 年 11 月、当時の今村荒男第 5 代総長のもと、湯川秀樹の大阪大学での研究を顕彰するために設立されました。湯川記念室では、湯川博士の専門分野である物理学や関連分野の研究成果を広く知っていただくために、湯川記念講演会（10 月頃）、高校生を対象とした「最先端の物理学を高校生に Saturday Afternoon Physics (SAP)」(10 ～ 11 月頃)、いちよう祭（5 月）での一般公開パネル展示などを行っています。



総合学術博物館

総合学術博物館では、大阪帝国大学時代に在籍した、日本の科学の中心を担う新進気鋭の研究者の業績を常設展示として紹介しています。当時は自由な研究環境のもと、数々のユニークな研究が行われました。湯川秀樹をはじめ、土星型原子模型で知られる長岡半太郎初代総長、八木アンテナで知られる通信工学の八木秀次、サイクロトロン建設に尽力した原子核物理学の菊池正士、漆の分析を行い日本の有機化学研究を牽引した真島利行などが、パネル展示で紹介されています。





節電の時は来た。

た
た
か
い

省エネルギー担当

理事
馬場章夫

財務戦略担当

理事
大竹文雄

平成26年度夏季
節電・省エネ計画期間 H26 7/1 ~ 9/30

阪大の節電・省エネに関する取り組みを聞く

環境・エネルギー管理部副部長 下田吉之

▼キャンパスの低炭素化とは？

地球温暖化防止のため、CO₂排出量を少なくするためにはエネルギー消費の抑制やグリーンエネルギーへの転換などを考えていく必要があります。阪大は大阪府下の事業所でもCO₂排出量の多さは上位クラスで、特に吹田キャンパスは吹田市最大の温室効果ガス排出事業所です。環境・エネルギー管理部（環エネ）では、環境イノベーションデザインセンターと共同で低炭素キャンパスの実現に向けた取り組みを推進しています。

▼節電・省エネにどう向き合うか

2011年の東日本大震災を契機に電力需給の問題が大きく浮上しました。阪大でも夏・冬の電力需給逼迫時に「節電・省エネ計画」を掲げ、各構成員の協力により所定の成果を挙げてきました。しかし、昨年から電力料金的大幅値上げが大きな問題となっています。阪大は特に研究のために大量の電気を消費しています。どのようにこの問題乗り越えるか、大学全体の重要問題として各個人が考えないといけない問題です。

▼どういった節電対策を？

阪大はエネルギー消費の85%を電力に依存しています。近年は新しい建物が次々と建っていることもあり、電力使用量はあまり減っていません。電力可視化システムで使用量を分析していますが、阪大の電力消費のおよそ8割は、実験装置などによる1年中点けっ放しの「ベース電力」が占めています。電力可視化システムは学内から誰でも見ることができますので、自分の建物がどれだけの電力を消費しているのか確認することで、省エネの必要性を自覚してもらうことも大事だと思います。

▼身近な問題、課題は？

夏場の省エネを、エアコンの設定温度を高くすることだけに頼ることは健康面（たとえば熱中症など）、仕

事の能率への影響も考えなければいけません。また、病院などでは節電することはかなりの困難を伴います。照明の間引きやパソコン・停止可能な実験機器のこまめなオンオフ等その他の対策との組み合わせ、長期的には予算を投じての空調や照明の更新を考えなくてはならないと思います。

▼将来的な展望・構成員の協力

環エネでは関係部局と共同でESCO事業を推進し、大規模施設の省エネには一定の目処が立ったと考えています。今後は実験装置を中心とする理科系の建物の省エネを考えていく時期になったと考えています。環エネでは各実験室の電力消費測定サービスの始めていますので、関心のある研究室は是非ご相談下さい。また、この夏も構成員向けに夏季の節電・省エネ計画を通知していますので、皆さんのご協力をお願いします。夏期の一斉休業前には、実験室で停止可能な機器を停止し、電力可視化システムでその効果を確かめていただけると良いと思います。



電力可視化システムで測定したデータは、本学公式ウェブページなどでリアルタイムでご確認いただけます。

下田吉之（しもだ よしゆき）
1985 年大阪大学工学部環境工学科卒業。90 年同研究科環境工学専攻修了。2007 年から環境・エネルギー工学専攻教授。専門は環境工学、都市エネルギーシステム工学など。

2 阪大の節電・省エネに関する取り組み

【事例1】ESCO 事業 ～阪大全体の二酸化炭素排出量を約9%削減～

ESCO事業とは、省CO₂・省エネルギー提案、施工、計測・検証、保守・運用まで省エネルギーに関する包括的なサービスを提供し、光熱水費など省エネルギーの削減効果を保証する事業です。事業者は、省エネルギーにより節減された経費の中から一定の報酬を得る仕組みになっています。

阪大では3事業(核物理研究センター、医学部附属病

院、レーザーエネルギー学研究センター)のESCO事業を実施しました。

削減効果としては、年間で二酸化炭素排出量9,624t-
CO₂、一次エネルギー195,890GJを削減できる見込みで、3部局で全学の二酸化炭素排出量の約9%が削減できる計算になります。初期費用として約11億円投資しましたが、約4年で回収出来る見込みです。



核物理研究センターに設置されたインバーターボ冷凍機



医学部附属病院に設置された小型貫流ボイラー



レーザーエネルギー学研究センターに設置された空冷モジュールチラー

【事例2】大阪大学会館 ～省エネ改修で電力自給8割を達成～

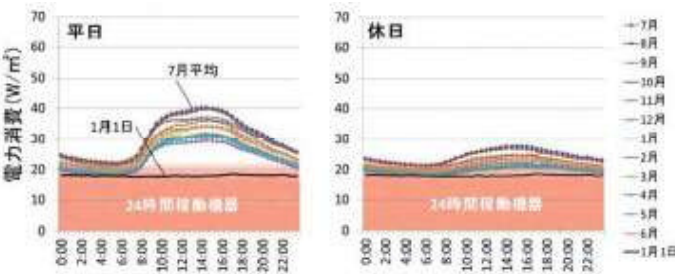
大阪大学会館は、2011年に創立80周年事業の一環で、本学のシンボルおよび改修モデル施設として、大幅な改修を行いました。登録有形文化財としての外観保護に配慮しつつ、省エネ機器の更新(建物の断熱化、LED照明の導

入など)、太陽光発電パネルの設置など、省エネルギー化・低炭素化を図る改修が行われました。2012年度の実績では、当初のシミュレーション予測を大幅に上回る電力自給率85%を達成しています。



阪大では、人の活動に関係なく常時稼働している「24時間稼働機器」が、年間電力消費量の約8割、年間電気料金の約7割を占めています。

今後、エネルギー消費量や電気料金をさらに抑えるには、これらの機器の対策がポイントになります。



大阪大学・理科施設群の電力ロードカーブ



2×Cool
Cool Biz & Cool Work

2×Coolキャンペーン2014モデル

Kyle Bedellさん
国際交流オフィス国際交流課
国際交流企画係

澤田智子さん
未来戦略支援事務局総務係

下元由宇さん
財務部財務課財務第三係

飯田祥子さん
工学研究科機械工学専攻複合メカニクス講座

浅井和広さん
クリエイティブユニット

役員室 だより

執行部による各部局等訪問

各部局の方々と率直な意見交換をすることを目的として、昨年11月から執行部による部局訪問を行っています。これまでに11の部局を訪問し、各部局の優れた取り組み、教育研究の成果、研究者の方々の声を直に感じることができました。

部局訪問は9月以降も継続し、全ての部局を訪問する予定です。引き続き、各部局のご協力をよろしくお願いいたします。

▼これまでの訪問部局

- 11月12日 産業科学研究所
- 12月3日 医学系研究科
- 17日 文学研究科
- 1月21日 人間科学研究科
- 2月4日 工学研究科
- 18日 外国語学部・言語文化研究科（箕面）
- 3月11日 理学研究科
- 5月13日 免疫学フロンティア研究センター
- 6月3日 経済学研究科
- 7月1日 薬学研究科
- 15日 基礎工学研究科



外国語学部・言語文化研究科（箕面）訪問

「大阪大学特別教授」 （平成26年7月1日付け称号付与）



吉森 保（よしもり たもつ）
（生命機能研究科・教授）
称号付与期間：H26.7.1～H29.6.30
功績：「細胞生物学、特にオートファジーに関する教育研究業績」



創立100周年世界適塾構想会議の設置

大阪大学では、創立100周年世界適塾構想会議を新たに設置しました。

この会議は、2031年の創立100周年、そして22世紀にも輝き続けるための将来構想を検討することを目的として総会と常設部会として5つのワーキンググループを置くことにしています。

今後の会議で検討された構想を念頭に大学運営を行い、2031年の創立100周年において「世界適塾」として世界トップ10の研究型総合大学になることを目指します。

理事・副学長 恵比須 繁之



創立100周年世界適塾構想会議

- | | |
|--------|----------------------|
| 総
会 | (常設部会) |
| | ・基本構想 WG |
| | ・キャンパス構想 WG |
| | ・病院構想 WG |
| | ・創立100周年ゆめ募金実行 WG |
| | ・第3期中期目標・中期計画に関する WG |

大阪大学経営協議会学外委員

氏 名	役 職 名	備考
相澤 益男	独立行政法人科学技術振興機構顧問	○
井上 礼之	ダイキン工業株式会社取締役会長 兼グローバルグループ代表執行役員	
上山 隆大	慶應義塾大学総合政策学部教授	○
岡本 園衛	日本生命保険相互会社代表取締役会長	
尾崎 裕	大阪ガス株式会社代表取締役社長	
川島 康生	独立行政法人国立循環器病研究センター 名誉総長	○
小林 栄三	伊藤忠商事株式会社取締役会長	○
佐藤 行雄	公益財団法人日本国際問題研究所副会長	○
角 和夫	阪急阪神ホールディングス株式会社 代表取締役社長	
手代木 功	堀野義製菓株式会社代表取締役社長	
友野 宏	新日鐵住金株式会社代表取締役副会長	○
南部真知子	株式会社神戸クルーザー会長	
野路 國夫	株式会社小松製作所代表取締役会長	
渡辺 克信	朝日放送株式会社特別顧問	

※備考欄に○印を付している方は、総長選考会議委員も兼ねる

「秋季入学式」を英語で実施

今年度から、秋季（9月・10月）に入学する学部学生及び大学院学生を対象とした「秋季入学式」を実施することとしました。

今年度は、10月1日に吹田キャンパスのコンベンションセンターで挙行政式。

秋季入学生が多くが外国人留学生であることから、式の始まりから終わりまでをすべて英語で実施することとしています。

また、毎年9月に実施しています「大学院学位記授与式」は、「総長式辞」を今年度から英語で行うこととしました。

○秋季入学式

日 時：平成26年10月1日（水） 午前10時30分～
場 所：コンベンションセンター MOホール

○大学院学位記授与式

日 時：平成26年9月25日（木） 午前11時～
場 所：コンベンションセンター MOホール

理事・副学長 東島 清

役員室だより

環太平洋大学協会 (APRU) 第18回年次学長会議に参加

6月24日、25日に本学が加盟し、理事校に就任している環太平洋大学協会 (APRU) の第18回年次学長会議がオーストラリア国立大学主催で開催され、平野俊夫総長が出席しました。

今回は、「Big Data and The Shape of Things to Come」のテーマのもと、セッションが行われた後、Presidents Open Forumで平野総長が「世界適塾」について、未来戦略機構の石川真由美教授がAPRUにおける女性リーダーシップへの取組みについてプレゼンテーションを行いました。

次回は、平成27年6月28日～30日、大阪大学が主催校で開催しますので、皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

※APRU (環太平洋大学協会)

環太平洋地域を代表する16か国・45大学の学長で構成。各国・地域の高等教育の相互協力関係を強め、環太平洋地域社会にとって重要な諸問題に対し、教育・研究の分野から協力・貢献することを目的として1997年に設立。

理事・副学長 岡村 康行



オーストラリア国立大学での年次学長会議

施設整備とキャンパス環境の改善

平成26年3月に、様々な効果が期待できる施設が完成しました。

吹田キャンパスでは、プロジェクト実験及び臨床研究スペースを有する最先端医療イノベーションセンター棟の新築、核物理研究センター本館・社会経済研究所A棟の耐震改修、核物理研究センターリングサイクロロン棟に省エネ環境を推進する大規模太陽光発電設備 (150kW) を設置しました。

豊中キャンパスでは、法経講義棟の耐震改修、オープンラボを主体とする教育研究を行う文理融合型研究棟、グラウンド北側に普段は学生が体育授業の更衣室やクラブのミーティングなどに利用し、災害時には被災者の救護所等として活用できるシャワールーム・備蓄庫を備えた多目的倉庫を新築しました。

また、山田団地の吹田留学生会館は耐震改修と共に各寮室にユニットシャワー及びコミュニケーションスペースを設け、グローバル環境を改善しました。

理事・副学長 恵比須 繁之



太陽光発電設備 (吹田・核物理研究センター)



多目的倉庫 (豊中・グラウンド北側)

女性教員の採用を推進しています!!

昨年度1年間における男女別の教員採用割合の集計の結果、本学における女性教員の採用割合は23.0%と、一昨年度 (17.9%) と比較して大幅に増加しました。これは、大阪大学男女共同参画推進基本計画 (平成24年4月男女共同参画推進委員会) に掲げる“平成27年度までに20%”という目標を前倒して達成するものです。

その結果、5月1日現在における女性教員の在職割合も13.5%と、一昨年度以降、増加傾向にあります。残念ながら、職階が上がるほど女性の割合が低い、また、プロジェクト雇用における女性の採用割合が高いといった傾向も依然として続いている状況です。

本学が目指す「調和ある多様性の創造」のためには、多様な人材による多様な知の結集が不可欠であり、性別に関わらず全ての構成員がその持てる力を最大限発揮できる大学づくりを進めていく必要がありますので、引き続き、皆様のご理解とご尽力をよろしくお願いいたします。

理事 大木 高仁



【参考】女性教員の採用割合・在職割合の推移
<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/diversity>

事務活性化通信「活性化Motto!」を発行

平成16年の法人化後、国立大学はいわば「大競争」の環境に置かれています。そうした中で、本学が我が国屈指の研究型総合大学としてそのプレゼンスを高め、世界に羽ばたくためには、大学運営や教育研究の基盤を抜本的に強化していくことが不可欠です。

教員とともにそれを支えるのが事務職員であり、その資質能力の向上は極めて重要です。このような観点から、職員一人一人の意識改革を図り、優秀な人材の育成に資するべく、「もっと」事務活性化を目指すための情報誌「活性化Motto!」を発行しました。

本誌では、職員の自己成長につながるキッカケとなるよう、大学をめぐる最新の動向のほか、特に各部署・個人による優れた取組みを紹介することに力点を置いています。

職員からの寄稿も募り双方向で情報を共有することで、コミュニケーションの活性化を図っていききたいと考えていますので、事務活性化に関する取組事例や掲載を希望するトピックスがあれば、積極的に情報提供をお願いいたします。

理事 大木 高仁



活性化通信のロゴ

※本誌は学内専用サイト「マイハンダイ」からご覧いただけます。

【掲載場所】

マイハンダイホーム > 大学本部事務機構 > 総務関係
 > 事務改革

受賞(章)・表彰等



濱田博司 教授(生命機能研究科)
平成26年春の「紫綬褒章」受章

平成26年 春の叙勲

竹岡敬温 名誉教授(経済学部)	瑞宝中綬章
尾関英樹 名誉教授(理学部)	
中井貞雄 名誉教授(工学研究科)	
朝山邦輔 名誉教授(基礎工学研究科)	
平田達治 名誉教授(言語文化研究科)	
北村幸彦 名誉教授(生命機能研究科)	
大河内康憲 大阪外国語大学名誉教授	
松田坦 元大阪外国語大学職員	瑞宝双光章
灘 守 元大阪外国語大学職員	瑞宝単光章

受賞等

人間科学研究科	大谷順子 准教授	国際開発学会第24回全国大会 優秀ポスター発表賞
	張玉梅さん(博士課程)	
	山本香さん(博士課程)	国際開発学会第24回全国大会 優秀ポスター発表奨励賞
法学研究科	高田敏 名誉教授	ドイツ連邦共和国功労勲章一等功労十字章
理学研究科	柴岡弘郎 名誉教授	平成26年(第8回)みどりの学術賞
歯学研究科	峯篤史 助教	平成25年度日本接着歯学会 論文賞
工学研究科	三浦雅博 教授	GSC賞 文部科学大臣賞
	佐藤哲也 准教授	
	平野康次 助教	
基礎工学研究科	牛尾知雄 准教授	「電波の日」近畿総合通信局長表彰
	小椋智 助教	平成25年度 木原賞(溶接接合工学振興会)
	石黒浩 教授	Knowledge Innovation Award 2013 特別賞
	高武直弘さん(博士課程)	電子情報通信学会 学術奨励賞
	垣見亮磨さん(博士課程)	Best Presentation Award in recognition of most impressive presentation of The 4th International Symposium on Terahertz Nanoscience
情報科学研究科	西尾章治郎 教授	電子情報通信学会 功績賞
臨床医工学融合研究教育センター	中島清一 特任教授	第26回中小企業優秀新技術・新製品賞「産学官連携特別賞・優秀賞」(山科精器株式会社との共同開発による受賞)
クリエイティブユニット	伊藤雄一 准教授	Knowledge Innovation Award 2013 グランプリ
留学生センター	古城紀雄 名誉教授	第41回一般社団法人日本銅センター賞
医学部附属病院		第24回国立大学附属病院医療安全管理協議会総会 第1回 Patient Safety & Quality Award(医療の質・安全大賞) 最優秀賞

大阪大学会館

第23回BELCA賞(ベストリフォーム部門賞)受賞

公益社団法人ロングライフビル推進協会が主催する、第23回BELCA賞(ベストリフォーム部門賞)に大阪大学会館が選ばれました。BELCA賞は、長期にわたって適切な維持保全を実施したり、優れた改修を実施した既存の建築物のうち、特に優秀なものを選び、その関係者を表彰することにより、わが国における良好な建築ストックの形成に寄与することを目的とする賞です。



平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰

工学研究科	牛尾知雄 准教授	科学技術賞(開発部門)
接合科学研究所	片山聖二 教授 (接合科学研究所長)	
	川入洋介 准教授	
医学系研究科	山下俊英 教授	科学技術賞(研究部門)
薬学研究科	水口裕之 教授	
産業科学研究所	八木康史 教授 (産業科学研究所長)	
	榎原靖 助教	
	近藤勝義 教授	
接合科学研究所	梅田純子 助教	
工学研究科	丸田章博 准教授	科学技術賞(理解増進部門)
理学研究科	高島義徳 助教	若手科学者賞
医学系研究科	村松里衣子 准教授	
工学研究科	松崎典弥 助教	
基礎工学研究科	山本俊 准教授	
生命機能研究科	中野珠実 准教授	
接合科学研究所	茂田正哉 准教授	

【総長顕彰】

教育部門(14名)

文学研究科	青木直子 教授
理学研究科	倉光成紀 教授
医学系研究科	磯博康 教授
工学研究科	柏木正 教授
基礎工学研究科	北山辰樹 教授
	佐藤宏介 教授
言語文化研究科	小口一郎 准教授
	村上忠良 准教授
	井上豪 教授
	上田良夫 教授
	生越専介 教授
	掛下知行 教授
	加藤直三 教授
	金子真 教授
	神戸宣明 教授
	菊地和也 教授
	紀ノ岡正博 教授
	兒玉了祐 教授
	下田吉之 教授
	菅原康弘 教授
	岡修平 教授
	民谷栄一 教授
	茶谷直人 教授
	中谷彰宏 教授
	中野貴由 教授
	福井希一 教授
	福岡英一郎 教授
	藤原康文 教授
	森勇介 教授
	山内和人 教授
	渡部平司 教授
	小西毅 准教授
	杉原英治 准教授
	中西英之 准教授
	萩原幸司 准教授
	馬場健史 准教授
	山村和也 准教授
	長井志江 特任准教授(常勤)

研究部門(159名)

文学研究科	秋田茂 教授
	上野修 教授
	藤岡穰 教授
人間科学研究科	小野田正利 教授
法学研究科	大久保規子 教授
経済学研究科	大屋幸輔 教授
理学研究科	梶原康宏 教授
	川村光 教授
	久野良孝 教授
	小林研介 教授
	今野巧 教授
	下田正 教授
	常深博 教授
	村田道雄 教授
	青木正治 准教授
	上田啓次 教授
	大隅惠一 教授
	岡村康司 教授
	片山一朗 教授
	金井好克 教授
	金田安史 教授
	菊池章 教授
	熊ノ郷淳 教授
	倉智嘉久 教授
	澤芳樹 教授
	杉山治夫 教授
	祖父江友孝 教授
	竹田潔 教授
	武田雅俊 教授
	竹原徹郎 教授
	畑澤順 教授
	森正樹 教授
	山下俊英 教授
	吉峰俊樹 教授
	玉井克人 寄附講座教授
	小倉裕司 准教授
	南野哲男 准教授
	平田雅之 特任准教授(常勤)
	宮川繁 特任准教授(常勤)
	李鍾國 寄附講座准教授
	金田眞理 講師
	平野賢一 助教
歯学研究科	野田健司 教授
	矢谷博文 教授
歯学部附属病院	久保延雅恵 講師

薬学研究科	宇野公之 教授
	小比賀聡 教授
	辻川和太 教授
	堤康史 教授
	水口裕之 教授
	近藤昌夫 准教授
工学研究科	明石満 教授
	浅田稔 教授
	井上豪 教授
	上田良夫 教授
	生越専介 教授
	掛下知行 教授
	加藤直三 教授
	金子真 教授
	神戸宣明 教授
	菊地和也 教授
	紀ノ岡正博 教授
	兒玉了祐 教授
	下田吉之 教授
	菅原康弘 教授
	岡修平 教授
	民谷栄一 教授
	茶谷直人 教授
	中谷彰宏 教授
	中野貴由 教授
	福井希一 教授
	福岡英一郎 教授
	藤原康文 教授
	森勇介 教授
	山内和人 教授
	渡部平司 教授
	小西毅 准教授
	杉原英治 准教授
	中西英之 准教授
	萩原幸司 准教授
	馬場健史 准教授
	山村和也 准教授
	長井志江 特任准教授(常勤)
基礎工学研究科	新井健生 教授
	井元信之 教授
	尾方成信 教授
	河原源太 教授
	鈴木義茂 教授
	刈田博一 教授
	中野雅由 教授
	細田耕 教授
	真島和志 教授
	吉田博 教授
	橋本守 准教授
言語文化研究科	杉田米行 教授
	由本陽子 教授
	大村敬一 准教授
国際公共政策研究科	瀧井克也 教授
	野村美明 教授
生命機能研究科	石井優 教授
	北澤茂 教授
	近藤滋 教授
	高島成二 教授
	月田早智子 教授
	仲野徹 教授
	八木健 教授
	吉森保 教授
	村上富士夫 特任教授(常勤)
	木村宏 准教授

情報科学研究科	井上克郎 教授
	清水浩 教授
	東野暉夫 教授
連合小児発達学研究所	中神啓徳 寄附講座教授
微生物病研究所	伊川正人 教授
	高倉伸幸 教授
	松浦善治 教授
	山本雅裕 教授
	藤永由佳子 特任教授(常勤)
	岩本亮 准教授
産業科学研究所	安藤芳雄 教授
	安藤陽一 教授
	古澤孝弘 教授
	小林光 教授
	笹井宏明 教授
	菅沼克昭 教授
	竹田精治 教授
	谷村克己 教授
	永井健治 教授
	中谷和彦 教授
	真嶋哲朗 教授
	松本和彦 教授
	八木康史 教授
	鷲尾隆 教授
	川合知二 特任教授(常勤)
	山口明人 特任教授(常勤)
	西野邦彦 准教授
	能木雅也 准教授
	柳田剛 准教授
蛋白質研究所	栗栖源嗣 教授
	篠原彰 教授
	関口清俊 教授
	高木淳一 教授
	中川敦史 教授
	中村春木 教授
接合科学研究所	近藤勝義 教授
	藤井英俊 教授
	桐原聡秀 准教授
	塚本雅裕 准教授
サイバーメディアセンター	細谷行輝 教授
	義久智樹 准教授
レーザーエネルギー学研究センター	斗内政吉 教授
免疫学フロンティア研究センター	宮永憲明 教授
	荒瀬尚 教授
	木下タロウ 教授
	黒崎知博 特任教授(常勤)
	華山力成 特任准教授(常勤)
	馬場義裕 特任准教授(常勤)
未来戦略機構	中野賢 特任准教授(常勤)
産学連携本部	正城敏博 教授
社会・国際貢献部門(6名)	
人間科学研究科	井村修 教授
理学研究科	細谷裕 教授
医学系研究科	牧本清子 教授
社会経済研究所	芹澤成弘 教授
核物理研究センター	藤田佳孝 准教授
全学教育推進機構	藤田和樹 准教授

【総長奨励賞】

教育部門(5名)	
人間科学研究科	安元佐織 特任助教(常勤) LAM LAI MING 特任助教(常勤)
薬学研究科	前田真一郎 講師
言語文化研究科	西田理恵子 講師
全学教育推進機構	坂尻彰宏 准教授

研究部門(296名)	
文学研究科	市大樹 准教授 桑木野幸司 准教授 橋本順光 准教授 植原美苗 助教
人間科学研究科	野村晴夫 准教授 諏訪兄一 助教 日暮泰男 助教 藤野陽生 助教
法学研究科	上川龍之進 准教授 砂原庸介 准教授
経済学研究科	中川功一 准教授
理学研究科	久保孝史 教授 山口浩靖 教授 山口浩靖 教授 浅野建一 准教授 石田政司 准教授 砂川秀明 准教授 住貴宏 准教授 高橋篤史 准教授 宮地秀樹 准教授 和泉雅之 講師 寺尾憲 講師 齊藤圭亮 助教 高島義徳 助教 高橋達郎 助教 田中大輔 助教 平尾泰一 助教 横山正 助教

医学系研究科	河原行郎 教授 辻川元一 寄附講座教授 池田純一郎 准教授 瀬戸奈津子 准教授 中田慎一郎 准教授 永森收志 准教授 藤原祐一郎 准教授 村松里衣子 准教授 吉岡靖生 准教授 吉澤剛 准教授 市丸直嗣 寄附講座准教授 坂口裕和 寄附講座准教授 馬場耕一 寄附講座准教授 石田雄介 講師 真田昌爾 講師 杉本研 講師 小豆澤宏明 助教 荒堀仁美 助教 石井良平 助教 上野豪久 助教 岡雄一郎 助教 北島康司 助教 熊澤恵一 助教 小澤純二 助教 武田理宏 助教 辰巳直也 助教 富田興一 助教 内藤智之 助教 直居靖人 助教 中岡良和 助教 中村仁美 助教
--------	--

医学系研究科	橋本香映 助教 畑泰司 助教 福島五月 助教 藤原智子 助教 舟木壮一郎 助教 本間圭一郎 助教 前田法一 助教 味村和哉 助教 三好智満 助教 村上慎吾 助教 米谷泰一 助教 川本弘一 特任助教(常勤) 北岡太一 特任助教(常勤) 中森雅之 特任助教(常勤) 柏庸三 寄附講座助教 片上直人 寄附講座助教 工藤敏啓 寄附講座助教 山森英長 寄附講座助教
--------	---

医学部附属病院	三原直樹 准教授 興光朗 講師 岩谷博次 助教 瀧直樹 助教 前川佳敬 助教 豊田博紀 准教授 仲野和彦 准教授 波多賢二 准教授 加藤隆史 講師 佐藤元 助教 砂真一郎 助教 高橋雄介 助教 峯篤史 助教 和田誠大 助教
---------	--

歯学研究科	伊藤祥作 講師 柿本直也 講師 権田知也 講師 野村良太 講師 三浦治郎 助教 村上句平 助教 山下元三 助教 有澤光弘 准教授 岡田直貴 准教授 岡田欣児 准教授 中澤敏信 特任准教授(常勤) 橋敬祐 特任講師(常勤) 吾郷山希夫 助教 井川貴詞 助教 樋野展正 助教 村井健一 助教
-------	--

薬学研究科	森島圭祐 教授 伊藤剛仁 准教授 入江政安 准教授 内山進 准教授 大畑充 准教授 小野澤 准教授 小野田晃 准教授 貝戸清之 准教授 北野勝久 准教授 黒崎健 准教授
-------	---

工学研究科	
-------	--

工学研究科	古賀雄一 准教授 小久保研 准教授 阪口将 准教授 佐藤和則 准教授 佐藤哲也 准教授 眞田靖士 准教授 佐野智一 准教授 佐野泰久 准教授 白土優 准教授 杉原知道 准教授 杉本宜昭 准教授 杉山峰崇 准教授 關光 准教授 惣田訓 准教授 高橋幸生 准教授 垂水竜一 准教授 辻拓也 准教授 津田哲哉 准教授 土谷博昭 准教授 藤内謙光 准教授 林田祐樹 准教授 福通知弘 准教授 藤田克昌 准教授 本田孝祐 准教授 松浦友亮 准教授 松田崇弘 准教授 松村浩由 准教授 水上進 准教授 森浩亮 准教授 山口康隆 准教授 山田裕介 准教授 山本昌宣 准教授 吉村智 准教授 秋山庸子 講師 石本草也 講師 大橋理人 講師 間久直 講師 衣斐信介 助教 大参宏昌 助教 小野倫也 助教 小西宏和 助教 齋藤真人 助教 佐伯昭紀 助教 澤村淳司 助教 内藤賢公 助教 柳楽知也 助教 平野康次 助教 堀雄一郎 助教 松崎典弥 助教 松山智至 助教 吉川裕之 助教 内田雅之 教授 馬越大 教授 西山憲和 教授 今西哲士 准教授 岩井大輔 准教授 貝瀬秀裕 准教授 木須孝幸 准教授 君塚肇 准教授 劔隼人 准教授 永井正也 准教授 中村芳明 准教授 富士田誠之 准教授 堀川敬太郎 准教授 水落憲和 准教授 水垣共雄 准教授 山田亮 准教授 若林裕助 准教授 伴貴彦 講師 内田幸明 助教 越山順一朗 助教 田原一邦 助教
-------	---

基礎工学研究科	
---------	--

基礎工学研究科	久武信太郎 助教 上出寛子 特任助教(常勤)
言語文化研究科	北田信 准教授 小杉世 准教授 古谷大輔 准教授 三宅真紀 准教授 横井幸子 講師 松本充郎 准教授 白崎竜一 准教授 竹内裕子 准教授 田村淳 准教授 中野珠実 准教授 濱崎万徳 准教授 南野徹 准教授 渡邊正勝 准教授 石飛秀和 助教 内川昌則 助教 菅生紀之 助教 高岡勝吉 助教 宮澤清太 助教 平山晃斉 特任助教(常勤)
情報科学研究科	尾上孝雄 教授 若宮直紀 教授 市橋伯一 准教授 伊野文彦 准教授 梅谷俊治 准教授 奥原浩之 准教授 清水正宏 准教授 寺前順之介 准教授 橋本昌宣 准教授 松田史生 准教授 大下福仁 助教 瀬尾茂人 助教 酒井佐枝子 准教授 橋本亮太 准教授 島村宗尚 寄附講座准教授 高野敦子 助教
連合小児発達学研究科	三木裕明 教授 小根山千歳 准教授
微生物病研究所	

微生物病研究所	齊藤達哉 准教授 藤井穂高 准教授 山縣一夫 特任准教授(常勤) 児玉年史 講師 田中淳 特任講師(常勤) 木戸屋浩康 助教 佐藤裕公 助教 末永忠広 助教 東岸任弘 助教 中村昇太 助教 福原崇介 助教 田中秀和 教授 家裕隆 准教授 川井清彦 准教授 河原吉伸 准教授 神吉輝夫 准教授 來村徳信 准教授 古崎晃司 准教授 筒井真楠 准教授 松田知己 准教授 松本健俊 准教授 室屋裕佐 准教授 開発邦宏 特任准教授(常勤) 新井由之 助教 田中裕行 助教 服部粹 助教 大森義裕 准教授 加納純子 准教授 金城玲 准教授 田中秀明 准教授 木村博信 助教 鷹野優 助教 山下栄樹 助教 山田雅司 助教
産業科学研究所	川人洋介 准教授 西川宏 准教授 田代真一 助教
蛋白質研究所	吉村崇 教授
接合科学研究所	
ラジオアイソトープ 総合センター	

太陽エネルギー化学 研究センター	池田茂 准教授
保健センター	谷向仁 講師 樋口周久 助教
臨床医学融合研究 教育センター	八木雅和 特任准教授(常勤)
コミュニケーション デザイン・センター	本間直樹 准教授
環境イノベーション デザインセンター	原圭史郎 特任准教授(常勤)
国際教育交流センター	義永美史子 准教授
核物理研究センター	緒方一介 准教授 民井淳 准教授 白鳥昂太郎 助教 植田浩史 特任助教(常勤)
サイバーメディアセンター レーザーエネルギー学 研究センター	安福健祐 助教 藤岡慎介 准教授 有川安信 講師
免疫学フロンティア 研究センター	伊勢涉 特任准教授(常勤) 鈴木一博 特任准教授(常勤) COBAN CEVAYIR 特任准教授(常勤) 廣田圭司 特任准教授(常勤) DIEZ RUIZ DIEGO MANUEL 特任助教(常勤) 森勇樹 特任助教(常勤)
未来戦略機構	石井浩二郎 特任准教授(常勤) 深田宗一朗 特任准教授(常勤) 細田一史 特任准教授(常勤) 笠井淳司 特任助教(常勤)
産学連携本部	西嶋政樹 助教
情報推進機構	柏崎礼生 助教

人 事

— 新教授 —

平成26年5月16日	宮際計行	【所 属】社会経済研究所 理論経済学研究部門 【最終学歴】S60.5 テキサス大学オースティン校(米国) 経済学研究科博士課程修了	【前職】フロリダ国際大学
平成26年6月1日	石川将人	【所 属】工学研究科 機械工学専攻複合メカニクス講座 【最終学歴】H12.3 東京工業大学大学院情報理工学研究科情報環境工学専攻博士課程修了	【前職】本学准教授
平成26年7月1日	奥山宏臣	【所 属】医学系研究科 医学専攻外科学講座 【最終学歴】H4.3 大阪大学大学院医学系研究科外科系専攻博士課程修了	【前職】兵庫医科大学
	津島将司	【所 属】工学研究科 機械工学専攻複合メカニクス講座 【最終学歴】H11.1 大阪大学大学院工学研究科機械工学専攻博士後期課程修了	【前職】東京工業大学
	鬼塚真	【所 属】情報科学研究科 マルチメディア工学専攻ビッグデータ工学講座 【最終学歴】H3.3 東京工業大学工学部情報工学科卒業	【前職】日本電信電話株式会社

訃 報

基礎工学部	林卓夫 名誉教授	平成26年4月13日 逝去
基礎工学研究科	那須三郎 名誉教授	平成26年4月16日 逝去
教養部	加藤俊二 名誉教授	平成26年5月16日 逝去
医学部	近藤宗平 名誉教授	平成26年6月10日 逝去

学生の人間的な成長を総合サポート

キャンパスライフ支援センター

「大学に入って人間関係はうまくいかな」「環境が変わって学生生活になじんでいけるかな」

このように不安を感じる学生に対して、教職員はどのように手を差し伸べたいのでしょうか。キャンパスライフ支援センターは、学生への直接的支援はもちろん、教職員が学生をサポートする際のアドバイスも行います。本記事では、学生の人間的な成長をサポートするセンターの取り組みを紹介します。

本センターは、昨年6月に旧学生支援ステーションから新たに生まれ変わってきた組織です。障害学生支援、学生生活支援、キャリア支援の3ユニットが互いに強みを出し合いながら、学生の課題解決や成長のプロセスを総合的に支援することを目指しています。

障害学生支援ユニットでは、障害（傾向）のある学生の相談対応をはじめ、支援に関わる関係者間の調整、障害の啓発、支援体制の整備等を担っています。最近では、発達障害（傾向）学生に対する学内インターンシップといったキャリア支援、障害学生自身による支援マニュアルの作成も行っています。同時に、サポートする側となる教職員へのアドバイスや相談対応も行っています。障害者差別解消法の成立を受けた社会的背景のもと、大阪大学における合理的配慮のある教育環境を構築していくためにも、より一層、障害学生支援を充実していきたいと考えています。

学生生活支援ユニットでは、相談支援の面からは個別の対応に加えて、ピア・サポート的役割を担う学生生活相談員によるニュースレターの発行や、ステーションカフェを定期的に実施することで、学生に対するコミュニティの提供や各々の相談につなげる活動を試みしています。

【主な取り組み】



キャリア支援ユニットでは、進路・就職に関するさまざまな相談に就職相談員やキャリアアドバイザーが対応しています。今年度からキャリアサポーター制度を導入し、阪大生（内定者や卒業生）が阪大生（就活生）をサポートする体制を整えていく予定です。

【障害学生支援ユニット担当から】

平成28年度から国立大学では合理的配慮のある教育を施行することが法的にも求められています。例えば、聴覚に過敏性のある発達障害の学生（話し声などの雑音を不快に感じる）に、講義中に周囲の雑音を軽減するために支援器具の着用を認めることや、聴覚障害の学生に聴覚情報を補助するノート・PCテイクの利用を認めることなどになります。

もちろん合理的配慮は授業形態・授業内容などによって、一律に決められるものではありません。したがって、個別事例ごとに話し合いつつ進めることが多くなるとは思いますが、本センターでは各部局の教職員の方が障害学生にかかわる際に参照できるような、大阪大学としての合理的配慮のある障害学生へのガイドラインを作り上げていきたいと思っています。どうぞご協力よろしくお願いします。（文責：障害学生支援ユニット担当 望月直人特任准教授）

1. 手話講習会（障害学生支援ユニット）

手話の学習経験の少ない方を対象に、毎年開催しています（全10回）。初級の手話を学ぶことを通じて、聴覚障害のある方や、手話を自らの言語とする方の生活に触れるきっかけとしていただきたいと思います。

2. ステーションカフェ（学生生活支援ユニット）

クラブやサークル活動、あるいは友人の輪に積極的に入りにくい、所属や居場所がなく大学に来づらい、学生支援に興味を持っている…など様々な学生の相互交流をめざした場づくりを積極的に行っています。（写真はフィンガーペインティングの様子）

3. 居場所スペース「ほっこり」（障害学生支援ユニット）

発達障害（傾向）や精神障害のある学生に対して、休み時間や調子が良くないときに、気楽に休めるような安全なスペース（居場所）を、今秋から提供する予定です。早期に利用学生の支援ニーズを把握することで、具体的な修学支援や就労支援につなげられると考えています。（写真は設置予定のスペース）

学生からの相談例

相談例①

発達障害のあるAくん

履修登録の仕方がよくわからなくて困っています。もう登録の締め切りが迫っていてパニックです。

履修登録については、何年次に単位取得が必要かなどいろいろなルールがあります。所属学部の便覧やKOANの情報を一緒に確認し、履修登録手続きのお手伝いをすることができます。



スタッフ



スタッフの人が履修登録の手続きをする学部の教務係に同行し、事務職員の方にも説明してくれました。必要な情報を得て、希望通りの履修科目を登録することができてほっとしました。

相談例②

聴覚障害のあるBさん

聴覚障害があり、授業で先生の話聞き取りにくい…

講義を文字に書き起こして伝える『ノートテイク』や『パソコンノートテイク』を試してみてもいいかもしれませんね。Bさんの所属学部と相談の上、授業を担当する先生へも配慮を希望する事項をお伝えすることができます。



スタッフ



『ノートテイク』を利用することで先生の話が分かり、安心して授業を受けられるようになりました。先生方も目で見えて分かる資料を多めにする等の配慮をして下さり、授業を受ける楽しさを実感しています。

相談例③

新入生Cさん

大阪大学に合格して、これから多くの友人を作って学生生活を楽しみたいのですが、SNS上でメッセージを送ってくれた人から、履修登録やいろいろな相談に乗ってあげると言われました。これってどうなのでしょう？

今どきの学生はみんな、facebook、Twitter、LineなどのSNSを日常的に利用しています。メッセージを送ってくれた相手の所属する団体や学部・学年を確認しましょう。



スタッフ



あれ？この人って大阪大学の人がじゃなかったんだ。じゃあ一体誰だろう？何の誘いかなあ。危なかったなあ。

利用教職員の声

障害学生への合理的配慮という言葉は聞いたことがあるが、具体的にどのような対応をしたらいいのかが分からずに困っていました。ユニット教員から、当該学生の障害についての説明や対応面での工夫についての助言を受けて、授業でどのようなことに配慮すべきか部局内で検討しました。その結果、対応できること・難しいことをリストアップし、当該学生へ提示することができました。今後も、ユニットや当該学生と話し合いの場を持ちながら、当該学生の所属学部として対応を考えていきたいと思っています。

キャンパスライフ支援センターロゴ

3つのユニットを3色の花びらにたとえ、人のかたちになぞらえた花のガクでさまざまな学生を支えていく様子を表現しています。

【問合せ先】キャンパスライフ支援センター
障害学生支援ユニット Tel: 06-6850-6107
学生生活支援ユニット Tel: 06-6850-6651
キャリア支援ユニット Tel: 06-6879-7087（事務担当）
http://www.osaka-u.ac.jp/ja/guide/student/support_st

仕事とテコンドー『考える』ことが基本 限られた時間を有効に

近藤弘章 (こんどう ひろあき)

情報科学研究科会計係

小さい時から武道がいつもそばにあり、大学では哲学を専攻したという情報科学研究科会計係の近藤弘章さんはテコンドーの有段者。社会人になってから始めたそうですが、全国大会にも出場されています。爽やかでどこか哲学的な雰囲気が漂う近藤さんに、テコンドーの魅力を伺いました。



テコンドーとの出会いは?

今から 5 年ぐらい前、愛媛大学に採用されて半年ほどたった頃に日本テコンドー協会でテコンドーを始めました。私は、小学校と大学で空手を、高校で弓道をやっていましたが、これまでやったことのない武道がしたいと思っていました。テコンドーの華麗でアクロバティックな技を見て興味を持ちました。初めて道場見学に行ったとき、そのときの衝撃は忘れられません。「空手と似てるし簡単にできるだろう」と高を括って試しにやってみた技が全くできませんでした。そのときは「こんな動きとでもできんわ!」と思いましたね。



テコンドーの蹴りはダイナミックで、頭の上まで高く蹴り上げるのが特徴。空手とテコンドーは同じような技に見えるが、近藤さんの話では「デニスとバドミントンぐらい違う」。

テコンドーの魅力は何ですか?

最初にテコンドーの洗礼を受けましたが、自分の体格にあったオリジナルの形を突き詰めていく奥の深さに魅力を感じるようになりました。それは、これまでやってきた空手や弓道など他の武道とも通じています。例えば、「蹴る」という単純な技一つでも、十人十色の形があります。正解があるようでないところが、難しくも楽しいと思えるんです。もともと『禅』にも通じる弓道を高校時代に取り組み、大学時代には哲学を専攻しました。武道を通して自分と対話し、「考える」時間が、日々の生活で欠かせなくなっています。

「考える」ことは仕事にも役立っていますか?

現在は会計業務、特に旅費や人件費の管理をしています。もっと良い方法があるのではないかと常に「考え」、改善に取り組んでいます。また、日々気を付けているのは、一人で寡黙に取り組まず上司や先輩など色々な人の意見を取り入れながら進めることです。その上でさらに考えて、より良いものを生み出せればと思っています。また、大学職員として働くにあたっては、どうすれば学生さんの成長を手助けできるかということも考えながら仕事をしていきたいですね。

テコンドーと仕事に通じていることは?

試合で勝つために極める人、技の美しさを重点的に磨く人、ジムに行く感覚の人...など、テコンドーをやる目的は人それぞれです。私は特に美しさ、芸術的なところを見てほしいですね。技を磨くために出勤前と帰宅後、1日2回の体幹トレーニングに加え、週1〜2回道場での練習を積んでいます。練習に割ける時間が限られているからこそ、意味のある時間にできるように「考えて」練習するようにしています。仕事も同様に、密度の濃い仕事を心掛けています。いかに時間内に仕事を片付けて早く帰れるか日々考えています (笑)。



九州テコンドー選手権大会(2011年)相手の部で競技する近藤さん(写真右)。昨年の金日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会の個人型ではベスト8に入りました。今年も個人型に出場し、昨年を上回る結果を目指します。

自転車シェアサービス COGOO を 吹田キャンパスで実験導入

4月から、自転車シェアサービス COGOO を実験導入しました。吹田キャンパスに設置された各ステーションから、キャンパス内の移動に活用することができます (6月30日現在 3か所)。登録手続きをするだけで無料で利用できますので、学生、教職員のみなさんは是非ご利用ください。

5月31日時点で、設置台数 15 台、登録者数 516 名、1日あたりの利用回数は約 50 回 (1日3回転強)、延べ利用回数は 1,878 回となっています。

COGOO の HP (当サービス専用ページ) に記載されている利用方法、および大阪大学における自転車のルールを守り、安全な走行によるご利用をお願いします。

対象: 本学の学生・教職員

※「osaka-u.ac.jp」が含まれたアドレスを使って登録ができます。

利用方法:

- ①携帯電話から <https://cogoo.jp> にアクセスして登録する (利用できない携帯機種もあります)。
- ②ステーションで自転車を選ぶ。
- ③サイトにログインし暗証番号を取得する。
- ④自転車に暗証番号を入力して利用する。
- ⑤利用後はいずれかのステーションに返却する (最初に借りたステーションでなくても良い)。

利用ルール:

- 1 回のレンタルは 2 時間以内。
- 2 時間以内に駐輪場で返却しないと 1 週間レンタル禁止になります。



諭吉も食べた適塾の味を再現した「適塾御膳」

中之島センターにあるリーガロイヤルホテル直営レストラン「スコラ」では、適塾生に出されていた食事メニューを再現した「適塾御膳」の提供を 6 月から始めました。福澤諭吉は著書「福翁自伝」で、食事風景など当時の塾生たちの生活を細かく書いています。

スコラシェフの根来隆夫さんが福翁自伝をもとに素材や味付けを工夫しました。「味はいたってシンプルでストレート。現代人もおいしいと感じる」ということです。阪大とリーガロイヤルホテルのコラボ企画で実現しました。当面一日限定 10 食を販売します。



適塾御膳

- 1: 蛸汁 毎月3と8のつく日に決まって出ている。
- 2: 素麺 洗水盥も調理道具になっていた時代、素麺を冷やしていた。
- 3: 魚 うまい魚は食べられなかったらしい。
- 4: ネギと薩摩芋の難波煮 毎月1と6のつく日に決まって出ている。
- 5: 鶏と豆腐 毎月5と10のつく日に決まって出ている豆腐汁の豆腐。鶏肉と豆腐のつみれにアレンジしている。
- 6: 牛肉 当時は肉といってもとうていおいしい肉ではなかった。現代風にアレンジしている。

大阪大学未来トーク

次回

第12回 遠山敦子

公益財団法人トヨタ財団理事長、元文部科学大臣

「挑戦のすすめ」

7月22日(火) 17:00 ~ 18:30

メイン会場：大阪大学会館 講堂



メイン会場のほかにサテライト会場(各キャンパス・中之島センター・東京オフィス)を設け、ライブ中継を行います。

参加方法：事前申込不要、参加費無料、入場は先着順
問合せ先：未来戦略支援事務局総務係 TEL：06-6210-8244
E-mail：mirai-talk@iai.osaka-u.ac.jp

平成26年度後期開催(予定)

■第13回

10月20日(月) メイン会場：コンベンションセンター
丹羽宇一郎(元中国特命全権大使)

■第14回

11月13日(木) メイン会場：大阪大学会館
小林 誠(理論物理学者・2008年ノーベル物理学賞受賞)

■第15回

12月15日(月) メイン会場：コンベンションセンター
明石 康(元国際連合事務次長)

■第16回

1月23日(金) メイン会場：コンベンションセンター
野依良治(化学者・2001年ノーベル化学賞受賞)

大阪大学未来戦略機構
Institute for Academic Initiatives



適塾(安田泰幸 画)

適塾耐震改修工事完了・再オープン記念シンポジウム 「適塾 平成の改修」～未来へ守り伝えるために～

重要文化財としては先駆的な耐震改修工事の状況や適塾の歴史的意義、
文化的価値などについて講演します。

開催日時：9月21日(日) 13:30から
開催場所：中之島センター 佐治敬三メモリアルホール
問合せ先：広報・社学連携オフィス社学連携課 TEL：06-6444-2137

Handai-Asahi 中之島塾(7～9月期)

開催日時：7月12日(土)～9月19日(金)
開催場所：中之島センター
講演者等：①松本博志(医学系研究科教授) ②福永伸哉(文学研究科教授)
③船橋徹(医学系研究科教授) ④蜂矢真郷(大阪大学名誉教授)
⑤高島幸次(コミュニケーションデザイン・センター招へい教授)
⑥小矢野哲夫(言語文化研究科教授)
参加方法：朝日カルチャーセンター中之島教室のウェブページまたは
電話(06-6222-5224)により申込(随時受付中)
受講料：1,620円(全2回の講座は3,240円)
問合せ先：21世紀懐徳堂 TEL：06-6850-6443



[阪大 Quiz] 「阪大」と呼ばれるようになったのはいつから？(答えは31ページ)

①開学後 ②戦後 ③移転後 ④統合後

大阪大学×大阪ガス 「アカデミックッキング」



①Vol.49「ようこそ!タンパク質ワンダーランド」

開催日時：8月22日(金) 午前の部 10:00～13:00
午後の部 14:00～17:00

講演者等：栗栖源嗣(蛋白質研究所教授)

対象：小学4～6年生とその保護者

受講料：1,600円

②Vol.50「しあわせな長寿に必要なこと ～性格傾向からの考察」

開催日時：8月27日(水) 18:30～21:00

講演者等：権藤恭之(人間科学研究科准教授)

対象：15歳以上

受講料：2,100円

③Vol.51「No Pressure, No Life ～圧力で世界はこんなに変わる!」

開催日時：9月26日(金) 18:30～21:00

講演者等：清水克哉(基礎工学研究科教授)

対象：15歳以上

受講料：2,100円

開催場所：大阪ガスクッキングスクール千里(せんちゅうPAL1F)

参加方法：大阪ガスクッキングスクールウェブページ

(①②7/1～22、③8/1～21)または電話

(①②7/8～22、③8/8～21)により申込

問合せ先：申込は、大阪ガスクッキングスクール千里

(TEL：06-6871-8561)

講座内容は、21世紀懐徳堂

(TEL：06-6850-6443)

平成26年度「教員のための英語リフレッシュ講座」

開催日時：8月4日(月)～8月8日(金)

開催場所：言語文化研究科ほか(豊中キャンパス)

講演者等：言語文化研究科教員ほか

参加方法：言語文化研究科言語文化専攻のウェブページを参照。

講習料10,500円

問合せ先：言語文化研究科・外国語学部豊中事務室総務係

TEL：06-6850-5855

大阪大学室内楽アンサンブル第19回演奏会

開催日時：10月26日(日) 13:30開場 14:00開演

開催場所：コンベンションセンター MOホール

参加方法：事前申込不要。参加費無料

問合せ先：工学研究科 四宮良美

TEL：06-6879-7397(月・水・金のみ)

E-mail：shinomiya@chem.eng.osaka-u.ac.jp



([阪大 Quiz]の答え)

①. 1931年 5月1日の大阪帝国大学開学式を伝える新聞記事に、「阪大」という呼称が使われています。「阪大」が親しまれて83年、呼称にも歴史の重みを感じられます。



大阪毎日新聞 1931年5月2日朝刊

ワタシに
会いに来て
ください!

マチカネワニ化石が国の登録記念物に

6月20日、総合学術博物館が所蔵・展示するマチカネワニ化石が、国の登録記念物として新たに登録されることが文化審議会で認められました。

マチカネワニ化石は、1964年(昭和39年)5月に、豊中キャンパスの理学部校舎を建設中に約45万年前の地層から偶然発見されました。日本で初めて発見されたワニ類の全身骨格化石(約45万年前)で、頭骨の長さが1m、全長6.9m～7.7mの大きさです。ワニ類の進化を示す化石として世界的にも重要な標本となっています。

この夏は特集展覧会や小中学生にも楽しんでもらえるワークショップ、11月には大阪大学シンポジウム「マチカネワニ・サミット2014」の開催も予定しています。



大阪大学「ワニ博士」



総合学術博物館待兼山修学館で展示されている
マチカネワニの全身骨格化石

2014年夏期特集展覧会

「奇跡の古代鰐・マチカネワニ —発見50年の軌跡—」

会 期：7月26日(土)～8月30日(土)

会 場：総合学術博物館待兼山修学館

問合せ先：総合学術博物館 TEL: 06-6850-6714

※ワークショップ等の開催情報は本学公式ウェブページをご覧ください。



おたのしみに!



七大戦開催中!

Facebook や Twitter で阪大を応援しましょう。

第53回全国七大学総合体育大会は、今年京都大学の主管で行われています。Facebook ページでは、競技順位の速報など随時更新されています。みんなでコメントを書き込んで、阪大を応援しましょう!

f <https://www.facebook.com/7daisen/info>

t @nanadaisen53rd



第53回大会マスコット
「ホケキョ坊」

大阪大学未来基金

“創立100周年ゆめ募金” にご協力ください

大阪大学は「創立100周年、世界トップ10、未来基金100億円」を目標として、「創立100周年ゆめ募金」を開始しました。

【問い合わせ】

大阪大学基金室

TEL: 06-6879-8327/FAX: 06-6879-4337

Email: kikin@office.osaka-u.ac.jp

<http://www.miraikikin.osaka-u.ac.jp>



大阪大学
未来基金

